品質を維持し、新規作付者増加を目指す

りんどう産地見学会を開催

▲栽培方法の説明を受ける参加者

りんどうの産地拡大を図るため、りんどう生産組合（菊地昇一組合長）は産地見学会を開催しました。

生産者やJA、山本地域振興局農業振興普及課のほか、約20名が参加して生産者の圃場を見学しました。りんどう栽培は藤里地区で始まり今年度で6年目を迎え、今後大きく成長が期待できる作物に挙げられています。

市場関係者は「白神りんどうは、他産地に比べ色合いも良く品質は県内トップクラスの水準です。この先の需要期に向けて、出荷数量の確保に努めてほしい。」と話していました。

主力作物「ねぎ」がいよいよ出荷スタート

収穫期を目前に目揃会を開催

▲ブランド強化に向け出荷規格を確認

生産者に対し、出荷規格の確認等を行う夏ねぎ目揃会が、7月22日に能代工業団地交流会館で開かれ、生産者・JA・市場関係者など約50名が参加しました。目揃会では、生育概況や病害虫の説明、出荷規格の確認などが行われました。

山本地域振興局職員は「生育は順調に進んでいるため、今後の生育に合わせて適期収穫に努めてほしい。また病害虫については、べと病・軟腐病等が発生しやすい環境である。特に軟腐病は近年夏の高温により多発しており、昨年発生した圃場では被害が心配されるので早めの防除が必要。」と話しました。

適期収穫による高品質みょうがの出荷を目指す

需要期へ向けてみょうが目揃会を開催

▲出荷規格などについて説明を受ける生産者

特産品であるみょうがの収穫・出荷を目前に控え、JAみょうが部会（工藤寿部会長）は、7月29日に能代市工業団地で目揃会を開催しました。

生産者やJA、市場関係者合わせて約70名が参加し、これまでの生育の確認と、今後の管理について説明を行いました。工藤部会長は、「生育状況は平年並みであるが、今後の天候により根茎腐敗病の発生のおそれがあるので定期的な防除をしてもらいたい。」とあいさつ。そのあとJAから出荷規格等が説明され、参加者たちは白神みょうがの更なるブランド力強化を誓い合いました。

牡牛座（4・20～5・20） 前向きになれそう。レジャーやイベントなどのお誘いを受けたら、気軽に応じて。クリエーティブな活動も幸運